

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073600308		
法人名	社会福祉法人 豊資会		
事業所名	グループホーム花梨		
所在地	福岡県古賀市花見南2丁目14-15 (電話) 092-940-7203		
自己評価作成日	平成 29 年 8 月 10 日	評価結果確定日	平成 29 年 10 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護職員の倫理と職務として、利用者と共に歩むことの出来る職員を育成している。「目配り、気配り、心配り、言葉配り、思いやり」を大切にし、介護側の都合での介護ではなく、入居者様がわがままを言えて、できる限りそれに応えてあげられることを目標にしている。共に歩む時間のあることに喜びを持ち、「花梨で生活出来てよかった。」と入居者様、御家族様に心より言って頂けるように努力している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 8 月 25 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は大通りより少し入った閑静な住宅地の一角に位置し、周りの住宅と調和している。建物1階が同法人のデイサービスであり、事業者は2階にある。L時形に居室が配置され、中心部に食堂、事務室があり、居室、共有部分共に十分なスペースを取っている。ICTを活用し、事業所内のペーパーレスを実施している。パソコンにより、情報の共有が図られ職員に周知されている。職員が積極的に外部の研修に参加できる環境があり、事業所の質の向上と各人のスキルアップにつながっている。様々な行事を楽しんでもらいながら、ゆっくりと過ごしていただくことを第一とし、利用者本位の個別のケアに取り組んでいる。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を実践する手段として、介護10か条を定めている。申し送り時に唱和することで、常に意識して理念に基づいた行動を取れるようにしている。	「ひとり一人の思いを大切に尊厳ある生活の質を支える」という事業所独自の理念と、地域密着型の視点がある介護10か条を定め、朝礼の際に唱和している。理念の実践に向けて、利用者がゆっくと、また楽しみを持って過ごせるように個別ケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	デイサービスと合同の行事や地域の方のボランティア受け入れを行っている。行事の際には、地域の方や運営推進委員の参加いただいている。	事業所は自治会に加入しており、事業所が開催する夏祭りには、地域の住民も参加がある。その他にも、ソーメン流しや和太鼓の演奏等、行事の案内を地域に配布している。近隣の小学校や保育園から生徒や園児が訪問し、プレゼント交換を行うなど交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症についての理解を深めていただけるように質疑応答や講習会を行なっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、会議では利用者の状況やサービスの実施について報告、話し合いを行なっている。会議を行事の日に合わせて、行事にも参加していただけるよう呼びかけている。	運営推進会議は2ヶ月1度開催され、利用者家族、行政、老人会や町内会役員が参加している。会議で、事業所の運営や、利用者の介護方法等の意見がでることがあり、実践できることは運営や業務に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が運営推進委員として会議に参加している。会議では実情報告やサービスの取り組みを報告し、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の窓口にも、月に一度は利用状況報告を行うため出向している。相談があればその都度、行政窓口に行き、行政に併設する社会福祉協議会とも連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルの基、勉強会を行ない、具体的な行為を検討することで身体拘束意をしないケアに取り組んでいる。平成28年に権利擁護推進員養成研修に職員が参加し研修を終えて推進員となり、職員に伝達講習を行った。	事業所の玄関は、日中は施錠をしていない。利用者の外出傾向を職員は把握しており、利用者の行動を制限することなく、見守りをおこなっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を含む研修を実施している。具体的な行為を検討することで画一的でないケアに取り組んでいる。平成28年に権利擁護推進員養成研修に職員が参加し研修を終えて推進員となり、職員に伝達講習を行った。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を実施し、理解し、必要性を求めてきた利用者や家族に申し込みの手続き方法等、橋渡しできる体制である。平成28年に権利擁護推進員養成研修に職員が参加し研修を終えて推進員となり、職員に伝達講習を行った。	権利擁護に関する制度は、事業所にパンフレットを置いて情報提供し、家族に対して説明もおこなっている。職員が権利擁護推進員養成研修に参加し、事業所の職員に伝達研修をすることにより、職員の制度理解に繋がっている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、不安や疑問点の質問を受け、十分な説明を行ない、理解を得ている。改定時には早急に説明する場を設けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話等で家族の要望を聴いている。運営推進会議に家族にも参加していただき、意見があれば運営に反映させている。	利用者、家族からの意見は、常日頃より聴くようにし、外食や買い物の希望に対して、行事として取り入れる等、個別の要望に対してもできる範囲で対応している。事業所以外の第三者相談窓口の説明は、利用開始時におこない、事業所玄関の正面にはポスター掲示して制度を紹介している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、職員会議を開催し、意見を出し合っている。要望や提案は運営に反映している。	職員に対する管理者の面談は、年に2回行われている。管理者は、アンケート形式を用いて職員の意見を聞きだす工夫をしており、出た意見は、業務ミーティングの中で検討され介護方法、椅子やテーブルの配置、事業所運営に反映されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度やアセッサーを活用し、個々の実績を評価し、面談を行い目標を設定することで、やりがいのある職場環境をの整備に努めている。面談の際には、職場環境に対する意見も聞き、不満や不安にならないようにサポートしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとしして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用時は制限を設けておらず、働く職員が生き生きと楽しく働ける職場環境を目指している。	職員の募集、採用は法人本部によって行われ、本人の希望や適正により配属される。定年退職の年齢は60歳であるが、継続の雇用も可能であり、事業所には、20代から60代までの職員が働いている。職員の適正により法人他事業所へ異動することも可能である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳を尊重することを理念に掲げており、勉強会で教育、啓発活動に取り組んでいる。	人権に関する外部の研修に参加しており、参加した職員は伝達研修を実施しており、研修記録も作成している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に参加しスキルアップを図るようにしている。また研修に参加後は伝達講習を行ない、職員全体で学習し、学習内容を現場に活かせるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、勉強会や交流の機会がある。行政とのネットワークもあり、各種研修に参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、本人が困っていることや要望等を時間をかけて聴くことで、信頼関係が構築できるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談で家族の困っていることや要望を時間をかけて聴くことで、信頼関係を築けるように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望や見学時に、本人や家族の希望を踏まえ、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かしながら、入居者様と家事等を協力しあいながら生活するように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が参加できる行事を多く企画し、参加していただいている。24時間いつでも面会できることから、本人と家族の絆を大切に、共に支えていく関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族参加の行事の時には、お孫様やひ孫様、親類の方の参加もして頂き、一緒に過ごせる時間を提供している。	利用者の自宅に咲いていた花を、隣人が持ってきたり、交流のあった友人が訪ねてきたりすることがある。遠方であったり、なかなか訪ねてくるのが難しい方の訪問の際は、訪問時に写真を撮り居室に飾ることで、利用者の記憶に残るようにしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士だけの交流が困難になってきているが、スタッフが間に入ることで孤立せずに、良好な関係が保てるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へも必要に応じて連絡をとり、その後の様子を伺うなど心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中から思いや意向を時間を掛け聞き取っている。意向の表出が困難な方に関してはアセスメント、生活暦等を見直している。ご家族様とも相談しながら出来るだけ本人様の思いに近づく事が出来るよう努力している。	利用者の思いや意向は、その方の生活歴、背景を把握した上、毎日の利用者との会話や、家族からの話を元に把握し、習字が得意な利用者や、歌や踊りが好きな利用者に対し、レクリエーション活動や行事に取り入れている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴、環境、サービス利用の経過等を把握するようにしている。センター方式を用い、結果を記録に残すようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式により、定期的に現状把握を行っている。状態変化があった際には記録を残したり、申し送り等で把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、看護師等関係者それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	利用者の担当職員が利用者や家族の意向や状態を把握してアセスメントし、他関係者の意見も取り入れながら計画作成担当者が立案している。これを月に1度のケアカンファレンスで全職員に情報を提供し、共有している。見直しは基本的に6ヶ月に1回であるが、入院など状態の変化に伴い見直され、その都度、家族に報告、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、ケアの実践、結果を記入することで情報を共有し、介護計画の評価時に活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、変化するニーズに柔軟に対応するよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方による紙芝居や併設しているデイサービスのイベントに参加等、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日の医療連携体制を確立し、利用者の健康管理に十分配慮している。また、本人や家族の希望を大切に、適切な治療が受けられるように関係を築いている。	入居後、ほとんどの利用者や家族は在宅訪問診療を希望しており、職員はこれを支援している。これ以外の希望するかかりつけ医への受診は基本的に家族が同行して行われるが、多くの場合、職員も同席し適切な受診がおこなわれるよう努めている。またその内容は全職員へ報告され、情報の共有をおこなっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の特変等を記録に残し、訪問看護ステーションの看護師も閲覧できるようにしている。看護師来所時には、報告連絡相談を蜜に行ない、情報を共有している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、地域連携室を中心に、情報交換を蜜に行なうようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時の対応について書面にて本人・家族の意向を確認している。状態変化がある時は、意向に変化がないかの確認を行っている。終末期には、医療関係者と共にチームを組んで、本人や家族を支援するように取り組んでいる。	事業所は重度化した場合の事業所の対応を明文化しており、利用開始時に利用者や家族へ説明を行っている。その他「緊急時対応の確認同意書」を用い、利用者や家族に意向の確認を行いながら、終末期の支援に取り組んでいる。職員は医師や24時間対応可能な訪問看護師とも連携しながら、利用者、家族に寄り添える終末期の支援に努めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が実践力を身に付けられるように、定期的に研修会を開き、応急手当や初期対応の訓練を重ねている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回に加え、夜間想定避難訓練を実施している。近所の方や、家族参加していたり、年に1度消防士に訓練状況を見てもらい、改善点の指摘を依頼している。	火災避難訓練は地域の方からも協力も得て消防署の参加も含め年2回実施している。消防署参加時には消火器の使用法などの他、非常ベルや消防機材などの確認も行ってもらっている。また非常用備蓄品は事業所内に確保されており、写真入りリストの添付により、誰もがわかりやすい工夫されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声かけやケアの実践を行っている。	事業所には「プライバシーの保護に関するマニュアル」があり、内部研修も行われている。各職員は排泄時や入浴時のケアや声掛けに特に配慮し、利用者の部屋の出入りなどにも声掛けして利用者本人の了承を得るなど、日常的に利用者のプライバシーを尊重している。また、個人記録などの個人情報への配慮も伺える。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の尊厳を尊重し、思いや希望の表出を促す言葉掛けを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思で決定できるような声かけを行ない、一人ひとりの生活のペースに合わせて支援している。今までの習慣や生活歴にも配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時の際は自分で服を選んで頂いている。髪型も家族より本人様の好みを聞くなどして、本人の意にそえるようにしている。緩下剤に頼らずに自然排便が出来る様に、家族様と相談して果物やヨーグルトなどを持ち込んで頂き提供している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じて盛り付けなどを職員と一緒にこなしている。個人外食など好きなものを食べ、食事を楽して頂く機会も設けている。	副菜は同法人内の栄養士の管理のもと調理されており、事業所は温めや食事形態の変更を行っている。また利用者ができる限り自分のペースやスタイルで食べられるよう、職員はさりげない支援を行い、時には、一緒に副菜やおやつ作りを行うなど、食事が一層楽しみとなるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立による栄養バランスの取れた食事が配色されている。食量や水分量も記録に残しており、その時々状態に応じた支援を実施している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。自身でのケアが困難で支援が必要な方にはスポンジブラシや歯間ブラシ、乾燥防止のスプレーなど、個々それぞれに合わせた口腔ケアを実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の力や排泄パターンを把握している。また、その日の体調等にも気をつけ、出来るだけトイレでの排泄が行なえるよう支援している。	職員は利用者の排泄のサインや習慣を把握し、なるべくトイレでの排泄ができるよう支援している。利用者の多くは薄手のリハビリパンツを使用しているが、常に最小限のおむつ等となるよう、見直しを行うなど排泄の自立支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ステップウェル等の室内で運動出来る物を使用し、便秘の予防に努めている。また、便秘時には牛乳を多く勧めたり腹部をマッサージする等行ない改善に努めている。緩下剤に頼らずに自然排便が出来る様に、家族様と相談して果物やヨーグルトなどを持ち込んで頂き提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本は週に2.3回ではあるが希望があれば毎日でも入浴できるよう環境を整えている。また、入浴拒否のある方には声掛けに工夫をし入浴にお誘いするなど、ご本人様のタイミングに合わせて入浴をしていただいている。	利用者毎に入浴日は定められているが、希望がある場合には柔軟に対応している。また入浴拒否の利用者には無理強いせず、利用者の気持ちの変化を待って入浴を勧めている。利用者の好みにより、入浴剤の使用や、入浴後のノンアルコールビールを提供するなどの工夫もなされている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の状態や生活のペースに合わせて休息をしていただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が新しく処方されたときは、注意すべき副作用は申し送りにて伝達し、その後の経過についても記録を残すようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の得意な方には漬物作り、書道の得意な方には行事等で書き物の役割を担っていただいている。また、日頃より食後の食器拭き等もしていただいております。ご自分の役割の認識を持たれている。お手伝い頂いた時にはスタッフが感謝の言葉を伝えるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば出かけられるよう、努めている。また、「服を買いたい」や「外食」についてのご希望もご家族、民生委員の協力を得て個別に支援できるよう、努めている。	花見やつつじ見学など年間を通して、介護度に関わらず全利用者を対象として、屋外での行事が実施されている。その際には家族や地域の協力を得ている。また、利用者の希望により大型ショッピングモールでの買い物や外食に出かけることもある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理が出来る入居者様が居ない状況であるが、外出した際に希望があれば、施設が立て替えて支払いをして、買い物ができる喜びを感じて頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節毎にご家族様や、ご親戚の方に手紙を出される等支援している。また、子供様からの贈り物等があった際も、電話や、手紙を出せるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや、廊下にソファを設置し、いつでも落ち着いて一息つける場所を作っている。また、廊下の壁面には季節毎の行事の写真等を貼っており、皆様、嬉しそうに眺められている。室温も夏場は27度、冬場は24度に室温調整し、換気や風を室内に入れるなどしている。	食堂、居間は統一感があり、花柄のカーテンや家具が配置され、明るい空間となっている。広い廊下には適宜ソファが配置されており、ゆったりくつろげる場所となっている。また利用者の貼り絵や習字は手作り台紙に貼って飾るなど温かみを感じさせる。更にトイレ、浴室も使いやすく整理整頓され安全に配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者がいつでも座り、馴染んでいる場所がある。リビング、廊下にソファや椅子を配置し、思い思いに過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の使い慣れた家具や、本人の好みの物に囲まれて居心地良く生活できるように配慮している。使い慣れた食器や家具、仏壇を持ち込まれている方もおられる。また、毎日面会に来られる方は、家族とくつろげるように、家具などを配置されている。	居室には馴染みの家具や使い慣れた小物等の持ち込みが可能で、自室として、個性ある落ち着ける空間となっている。またソファやテーブルを置くなど、訪問者と自由に過ごせる場にもなっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示を馴染みの言葉で表示したり、居室の名札もそれぞれ工夫し、安全に自立した生活ができるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない